

北の国・森林づくり技術交流発表会に参加しました

～森林技術協会理事長賞を受賞しました！～

平成19年1月24～25日に北海道森林管理局で平成18年度北の国・森林づくり技術交流発表会が開催され、全道の国有林関係者をはじめ森林・林業関係団体、ボランティア、高校生等、27組が参加しました。

発表はテーマ毎に森林施業や治山技術に関する森林技術部門とイベントやボランティア活動、地域との関わりなどに関する森林ふれあい部門及び高校生が発表する高校部門の3部門に分かれ、知床森林センターからは森林技術部門で「択伐跡地における林分変化の推移について」と題して発表を行いました。発表内容は昭和61年にヘリコプター集材を行った択伐地の20年間の変化に関するもので、結果「日本森林技術協会理事長賞」という賞をいただくことができました。

道内の森林・林業に携わる様々な立場から多岐に渡るテーマでの発表を聞くことが出来、興味を引く発表ばかりで、有意義で勉強になった2日間でした。



受賞式の様子です

展示室をリニューアルしました！

これまでのイベントで作成した草木染めや木作品を展示しました。また、エゾシカの角やシマフクロウの羽に解説文をつけ、手に取って見ることができるようになりました。展示室は毎週月～金曜日の8時15分～17時15分までとイベント開催時に開いていますので、お気軽にお越し下さい。



平成19年度国有林モニターを募集しています！

北海道森林管理局では国有林の役割や現状について理解して頂くと共に、国有林野の管理・経営に皆様の声を役立てていくことを目的にモニターを募集しています。

募集期限は2月15日(木)までとなっています。応募の詳細等につきましては、当センターHPをご覧ください。局担当(電話:011-640-3108【山崎】)までお問い合わせ下さい。

新規採用者の紹介

平成18年12月1日付けで新規採用になりました佐久間祐子です。

出身は東京都です。趣味は旅行なので、道東の色々な場所を巡ってみたいと思います。世界遺産の地・知床で仕事をすることができることを、とても嬉しく思っています。よろしくお願ひします。



北海道森林管理局 知床森林センター
〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町11番地
電話 0152-23-3009 FAX 0152-23-3160
ホームページ <http://www.shiretoko.go.jp>



(写真:フレベの滝のエゾシカ)

知床は今

平成19年が始まって1ヶ月近くが経ちました。昨年、流水の勢力が記録的に弱かったこと、から始まり、油で汚染された海鳥の漂着、スマトラ地震の記憶も新しい中での津波警報の発令、サンマの大量漂着と、何かと騒がしく話題に事欠かなかった1年でした。今年は平穏に過ぎてほしい、と思いつつも、年末年始に台風並みの爆弾低気圧が相次いで到来したり、1月13日に再び津波警報が発令されたりとなかなか落ち着きません。



流水と知床連山

そのような中ですが、晴れ間から姿を見せる、真っ白に雪化粧した知床の山々を見上げると、何かその姿から悠然とした雰囲気を感じ、不安な気持ちが和らぎ、心穏やかに過ごせるような気分になるので不思議です。



雪面に残るウサギの足跡

森林センターがある斜里市街からウトロに向かう間には、独立峰を含め特徴的な山々が連なっていて私達の目を楽ませてください。今の時期、ハイマツ帯となっている森林限界から上はすっかり雪で覆われてしまい、まるで白く滑らかにコーティングされているかのようです。スカッと晴れた青空と雪山のコントラストは、凜とした冷たい空気と相まってこの時期ならではの清々しさを感じさせてくれますし、白い流氷が海を覆う頃には、白と青が積み重なった、まさに、この時期の知床でないと見る事の出来ない得も言われぬ幻想的な光景を繰り広げてくれます。

冬の山の中は、葉っぱも落ちて見通しが利くとともに、葉が擦れ合う音を感じることも殆どないため、息を潜めれば静寂が広がる自分だけの世界を楽しむことができます。現場巡視のため歩くスキーを履いて森に入り、業務の合間に枝の間を飛び交う野鳥や、雪面に残った動物達の足跡等を観察することは何と贅沢な体験であることが、といつも思います。雪に閉ざされる期間が長い北海道ですが、このような魅力は伝える余地はまだ十分にありそうです。当センターでも2月と3月に、歩くスキーを使った森林観察会を開催します。寒さが続きますが、思い切って森に入ってみると新たな発見があるかもしれません。詳しくはセンターHPでどうぞ。

これからも様々な森林体験を提供したいと思っています。今年もよろしくお願ひいたします。

森の恵みで草木染め

～ 知床の草木を使ってハンカチを染め上げました～



木の皮や落ち葉等の自然の素材を使った草木染めを平成18年12月10日(日)に実施しました。当センターでは6年ぶりに復活のイベントになります。参加者は10名、大半が女性でしたが、小学4年生の女の子も参加してくれました。講師には、斜里町で羊を飼い、紡ぎ糸の草木染め等をしている森陽子(もりようこ)先生をお招きして指導頂きました。

午前9時に当センター2階会議室に集まった参加者は、まず手順の説明を受けた後、染料を取る草木の煮出し作業に取りかかりました。今回は染め液の材料としてキハダの樹皮、ヒメリンゴの枝、落ち葉の3種類を用意しました。キハダと落ち葉は知床の森から持ってきたもので、

材料を煮出しています

キハダからは鮮やかな黄色が、ヒメリンゴと落ち葉からは濃い茶色の煮汁が出てきました。

煮出している間にハンカチに模様を付ける作業に取りかかります。染色材に染まらない部分を作るため、ペットボトルのふたや割り箸を使い輪ゴムでハンカチに取り付けます。どんな模様にしようかと参加者同士談笑しながら作業を進め、模様付けが終わると次は染める作業です。煮出した染め液にハンカチを浸し、菜箸でかき混ぜながら着色します。その後、色を定着させる媒染の作業を経て水洗いをすれば作業はほぼ完了です。

キハダからはレモンのような鮮やかな黄色が、ヒメリンゴからは赤みを帯びた明るい茶色が、落ち葉からは濃いベージュに染まったハンカチが出来ました。また、ハンカチに取り付けた輪ゴムを外すと円や縞状の模様が出てきました。作業時間は約2時間。あっという間に過ぎてしまいましたが、参加者からは「身近な素材で草木染めが出来ることがわかった。」との感想を頂きました。各自、世界に二つと無いオリジナルの模様や色の「知床染め」が出来て満足頂いた様子でした。



落ち葉染めの完成!

知床に猿! ?

これはどんな動物の顔に見えますか? 猿の顔に見えませんか? 知床の森に猿が! ?

これは一体どんな木のどのような部分なのでしょう?

これはオニグルミの葉が落ちた痕なのです。目と口に見える部分は維管束痕(いかんそくこん)で木の葉へ水分や栄養分を運ぶ管だった場所です。冬の森の中を散策しながら木の葉が落ちた痕を見ていると、思わぬ「動物の顔」に出会えるかも知れません。



冬休み親子木工体験

～ 木の葉や枝がアイデア次第で大変身!～

平成19年1月13日(土) 当センタ - セミナ - 室において冬休み親子木工体験を開催しました。当日は急に参加できなくなった親子もおり、12名の親子が木工に挑戦しました。

最初に、当センタ - 職員より道具等の取り扱い説明を受けた後、早速木工作りが始まりました。会場には山から持ってきた小枝やドングリ、松ぼっくりなど自然の素材が豊富に用意され、子供達は前もって下書きしてきてそのとおりに作ったり、小枝などをいろいろ持ちながら考え込んでいたりして、それぞれ思い思いに取り組んでいました。また、お父さん、お母さん達も子供達の手伝いに悪戦苦闘していましたが、時間内に3～5個作る子供もいて、最後には冬休みの宿題ができたといって喜んで帰って行きました。



材料を選びます



職員と一緒に枝を切ります



作ったパーツをくっつけて...



完成!!

知床の樹木 ～カシワ編～

真っ白に雪化粧をしたこの時期の知床。海岸近くの森を歩いていると、落葉樹はとっくに葉を落としているはずなのに、時折カサカサと枯れ葉の擦れ合う音が聞こえてきます。音の主は、カシワの葉です。カシワの木は、枯れ葉を枝につけたまま冬を越します。これは、翌春葉になる冬芽を潮風による乾燥から保護するためであるといわれています。カシワが風の強い海岸沿いにも生育することが出来るのはこのような性質も一因と考えられます。

寒風にさらされながら冬芽を守る光景を子供を守る姿になぞらえ、子孫繁栄の縁起木とされているカシワ。知床ではフレペの滝周辺に自生しているほか、斜里市街からウトロへ向かう海岸沿いにも防風林として多く植栽されています。



ブナ科。落葉広葉樹の高木。樹皮は黒褐色で固く、不規則な裂け目ができる。葉は大型の倒卵形で、先の丸い大きな波状の鋸歯がある。果実のドングリ(堅果)は球型。用途は樽材、器具など。葉を使いカシワ餅を作る。